

## つながる税金

学校法人都築教育学園鹿児島第一中学校 2年 廣瀬 清楓

「高い体験旅行だったでしょう。」

母が書類の中から一枚の請求書を取り出し言った。一気に気持ちが和んだ。

昨年度末に体調を崩し、一週間の入院生活を余儀なくされた。退院の日、俯いている気持ちを察してか、何気にかけてくれたのかもしれない。その言葉に元気をもらい、請求書を手にとってみた。たくさんの数字が並ぶ中、目を引いたのが『補助』の欄だった。入院費の多くが『税金』で賄われていたのである。その時、改めて税金で支えられていたことを知り『ありがたい』と感じた。

税金は医療費だけではなく、様々なことに使われている。私たち学生に一番身近なものが教育だ。小中学校に無償で通うことができ、高校や大学にも税金が使われている。このことから税金は『つながり』を持つものだと考えるようになった。つながりとは、お金がそれぞれの人々に必要なものに代わって人と人をつないでいるということだ。例えば買い物の場面である。製品を購入し代金を払うことで、お金は生産者と消費者をつないでいる。しかし、税金のつながりはお金のつながり以上のものがある。人々の善意『心』をつなぐものということだ。それは、私たちが受ける教育は誰とつながっているのかを考えれば理解できる。一見難しそうだが、税金という概念から考えれば簡単に解決できる。まず、人々が納税することで、教育に必要なお金がもたらされる。そして、教育を受けた私たちが大人になって納税し、かつて納税してくれた方々に年金などの様々な形で返すといった仕組みだ。つまり、教育に必要なお金は、様々なものに代わって、多くの人々とつながっているのである。

日本国憲法には、『納税の義務』『勤労の義務』『教育の義務』とある。働くことで納税し、その税金で子供が教育を受けることができ、将来働くことができる。このように税金は三つの義務をつないでいるのである。税金は時空を超えて未来へと社会をつなげる役割も担っているのだ。そして、私たちはそのつながりによって、様々な権利が保障され、安心・安全に暮らすことができるのだ。

私は将来、医者になりたいと考えている。今回の入院生活で、実際に患者さんを助けている姿を目にして、医者への思いがさらに膨らんだ。そして私は今、税金によって学ぶことができている。勉強できることに感謝し、夢に向かって一層努力しようと決心した。

また、一人前の納税者になった時、現在納税されている方々に微力でも恩返しをしたいと思う。夢に向かって学ぶ子供たちの人生に、元気・希望を与えられたら嬉しい。考えただけでもワクワクする。私の納める税金が、日本国民の『みんなのために』心と心をつなぐものであってほしいと願う。

税金こそ『ONE FOR ALL, ALL FOR ONE』人間の助け合いの精神である。